

特性を生かした取組により、活気にあふれ、
将来に夢と希望が持てるまち「志布志市」を創生していくために…

施政方針

平成27年3月第1回志布志市議会定例会

※同定例会施政方針演説から抜粋したものです。



本田 修一 志布志市長

昨年2月に3期目の市政の舵取りを任されて以来、早いもので1年が経過しました。さらに輝きつつける「ふるさとづくり」の集大成に向けて、市政の課題に取り組み、様々な施策を展開してまいりました。

私は、これまで一貫して様々な場面で日本一づくりを申し上げてまいりましたが、ここに来てまち全体に日本一づくりの雰囲気、もの凄く高まってきたように感じております。まず、大相撲の千代鳳・千代丸関の兄弟幕内力士の活躍、第6回全国ご当地どんぶり選手権大会で、『志布志発』かごしま黒豚三昧」井の3位受賞、また、第1回鹿児島ラーメン王決定戦において、マルチョンラーメンが見事、初代「鹿児島ラーメン

王」に選ばれました。これらによって本市における経済振興や物産振興の取組に弾みがつくものと考えております。

環境分野におきましては、本市は、市の部門で9年連続で資源化率日本一を達成しました。このことは、市民の皆様との共生・協働の取り組みの賜物であり、市民の皆様の積極的な御協力に対し、改めて感謝申し上げます。

健康分野におきましては、市内の全小中学校でお茶の効能を生かした「志布志茶レンジ風邪なし運動」や「インフルエンザ・ゼロ作戦」にも取り組んでいるところであります。これらの取組から素晴らしい成果を得ることができれば、この運動に対して最高の評価が頂けるのではないかと思っております。

教育分野におきましては、学力向上日本一を目指して基礎学力はもちろん、「知・徳・体」のバランスのとれた教育を推進しています。さらに本年度におきましては、土曜学習教室事業やきらり輝くしゅしゅ子育て事業にも取り組んでいく考えであります。

農業分野におきましては、昨年11月に開催されました全国農業普及活

動高度化研究大会におきまして、志布志ピーマン栽培の取組が、農林水産大臣賞を受賞しました。

また、本年2月にアメリカのシアトルに向き、お茶の輸出に向けたトップセールスを実施しました。今後も、農林水産物販路開拓促進事業を展開していく考えであります。

また、「志布志の夏そば」の取組は、本年度で5年目となります。昨年は「12月31日は年越しそば。6月30日は志布志の夏そば」という食文化を本市から全国に向けて発信した結果、多くのメディアに取り上げられ、今後の展開に大いに期待の持てる取組になりました。本年度はさらに地域性のある味わい深いものを目指してまいります。この事業は6次産業化を実現するとともに、イベントにおける地域の方々との共生協働の取組となっているほか、志布志ブランドのモデルとして構築されつつあります。

このほかにも、様々な分野で日本一が次々と誕生しています。日本一づくりを目指す志布志市の意気込みが実感としてひしひしと伝わってきているところであります。

一方、大きな政治的課題として、人口減少問題が取沙汰されています。

日本創成会議の試算発表を受けて、本市においても大きな危機感を抱いたところであります。

その後、安倍首相は9月に開かれた臨時国会を地方創生国会と位置づけ、所信表明で若者にとつて魅力ある、町づくり、人づくり、仕事づくりを進めるとして、「まち・ひと・しごと創生本部」を創設し、政府として、これまでとは次元の異なる大胆な政策を取りまとめ、実行していくと表明されました。これを見るとき私は、まち・ひと・しごと創生については、これまで本市が取り組んできた日本一づくり、志布志ブランドづくりが、まさしくそのままであると感じた次第であります。そのようなことから、これまでの様々な日本一づくりをとりまとめ、県内ではもちろん全国の自治体に先んじて内閣府の地方創生推進本部に出向き、全国の先進的なモデルとしていただけるよう、志布志市の総合戦略プランとして内容を説明し、指導をいただきながら現在まで取組を進めてまいりました。内容につきましても、内閣府より高い評価を得ているところであります。

昨年12月に施行された「まち・ひと・しごと創生法」は、少子高齢化

の進展に対応し、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的とするものです。若者が結婚・出産・子育てを安心して行うことのできる環境の整備を行い、民間の創業促進と事業活動の活性化により、魅力ある就業の機会を創出するといったものです。また人口ビジョンの策定と、5か年の地方版総合戦略と具体的な施策を策定実行し、人口の現状や将来の見通しを踏まえ、成果の数値目標を定め、PDCA(計画・実行・検証・見直し)を行っていくとしています。

このようなことから、本市におきましては、国が示した方向に沿って本市の特性を生かした取組により志布志市を創生していくために、全力で取り組んでいく考えであります。

今後、本市の取組如何によっては、都会から若者が移住し地域活動をすることで地域の活性化が図られ、活気にあふれ、将来に夢と希望が持てるまちづくりに役立つものと考えております。

中でも、全国的にも稀で、システム構成も極めて高度な、ソーシヤル

ネットワークサービス連動型の自主メディアサイト「シシガーデン」を活用した、志布志市の創生事業を展開していきたくと考えております。本市の様々な日本一を目指す取組をはじめ、志の高い人やもの、ことなどを全国、世界へ情報発信しながら志布志市の魅力を伝え、情報機器を使いこなし専門性を持ったクリエイター等を志布志市へ迎え入れ、地域を活性化していくと考えるものであります。

そして、本市がこれまで取り組んできた「環境」、「健康」、「教育」を大きな柱とし、伝統をしっかりと守り志布志市の志を次の世代に繋いでいくなから、結果的には志布志市で作り出される全てのものに付加価値がつき、全国的に評価を受けることにより、ブランドが生まれマーケットが作り出され外貨を稼げるという、これらの一連の取組が日本の地方創生の雛形となるべく、今後総合戦略の策定に取り組んでまいります。

私は、日本一づくりの取組は、本市のまちづくりを進めるうえで極めて重要なものであると考えております。行政と市民が一体となり「志布志ブランド」を確立させる施策に取り組むことで、志布志の知名度、評

価が高まり、志布志で生産される農・畜・林・水産物が「安心・安全・健康・うまい・本物・環境・循環」をキーワードとして銘柄が確立され、そして市民の所得向上に繋がるものと考えております。引き続き市民の皆様と、様々な日本一づくりを確実に達成するための施策を実践してまいります。

地方創生事業とも連動しますが、本市の産業振興の源の一つは、なんと言っても志布志港の発展であります。平成23年5月に国際パルク戦略港湾に指定されましたが、その後、管理者である県とともに、特定貨物輸入拠点港湾の指定を受けるべく国にさらに強く要望を重ねているところであります。また、志布志港新若浜地区の背後地の販売を促進し、企業進出が果たせるよう努めております。都城志布志道路の整備促進についても、一日も早い全線開通を目指してまいります。

私は、志布志市の将来像であります「やすらぎとにぎわいの輪が協奏するまち」の実現のために誠心誠意全力を傾注する覚悟でありますので、これまで同様、市民の皆様のご理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。